

整形外科学：脊髄損傷

39-064 脊髄損傷患者で異所性化骨(異常骨形成)の好発部位はどれか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 手関節
4. 股関節 **最も多い。その他膝関節、肩関節、肘関節でもおこる。**
5. 足関節

39-090 高齢者の頸髄損傷で正しいのはどれか。

1. 半側横断型不全損傷が多い。 **中心性頸椎損傷が多い。**
2. スポーツ傷害で起こりやすい。 **転倒など軽微な外傷に伴うことが多い。**
3. 頸椎の骨傷を伴わないことが多い。 **骨折や脱臼は必ず伴わないことが多い。**
4. 上肢に比べ下肢の障害が重い。
5. 頸部過屈曲を受傷機転とする。 **伸展**

40-066 A S I A の評価法で誤っているのはどれか。

1. 感覚障害は **5** 段階で規定されている。 **運動障害は 0~5 の 6段階、感覚障害は 0~2 の 3段階で評価**
2. 肛門括約筋収縮の有無が規定されている。
3. C7 レベルの感覚は中指で検査する。
4. L5 レベルの key muscle は足指伸展筋群である。
5. 機能障害スケールはフランケル分類を改変したものである。

40-073 中心性頸髄損傷の特徴で正しいのはどれか。

1. 小児に多い。 **高齢者**
2. 頸部過屈曲によって生じる。 **過伸展**
3. 頸椎の脱臼骨折を伴う。 **ほとんどない。**
4. 運動障害は上肢よりも下肢の方が著しい。
5. 会陰部の感覚は残存する。

中心性頸椎損傷

- ・高齢者に多い。
- ・転倒などによる頸椎の過伸展損傷によるものが多い。
- ・背椎直中心部(灰白質)が障害
- ・下肢より上肢の麻痺が強い
- ・感覚より運動の " "
- ・肛門部周辺(会陰部)の感覚残存
- ・骨折、脱臼はほとんど伴わない。
- ・後縦靭帯骨化症などがみられ生じやすい。

44-079 中心性頸髄損傷で正しいのはどれか。

2つ選べ。

1. 高齢者に多い。
2. 骨傷を伴うことが多い。 **は、ほとんどない。**
3. 灰白質の損傷は少ない。 **か大きい。**
4. 上肢よりも下肢の症状が強い。
5. 後縦靭帯骨化症があると生じやすい。

45-P-089 中心性頸髄損傷の特徴はどれか。

1. 20歳代に多い。 **高齢者に多い。**
2. 大きな外力によって生じる。 **転倒など軽微な外力で生じるものが多い。**
3. 頸椎の脱臼骨折を伴う。 **ほとんどない。**
4. 知覚麻痺は重度である。 **上肢の知覚麻痺の方が重く、肛門周辺の知覚は保たれる。**
5. 下肢よりも上肢の運動障害が著しい。

46-A-082 頸髄完全損傷の機能残存レベルと課題との組合せで誤っているのはどれか。

1. C4———電動車椅子の操作 *顎コントロール式や呼吸コントロール式の電動車椅子の操作ができる。*
2. C5———ベッドへの横移乗 *移乗はできない。前後移乗はC6で、横移乗はC7以下でできる。*
3. C6———長便座への移乗 *長便座：通常の便座より細長く、前後移乗で使用できる。*
4. C7———自動車への車椅子の積み込み
5. C8———高床浴槽への出入り *高床浴槽：洗い場の高さと浴槽のふちとを考えたもの。*



47-P-063 脊髄後索の損傷によって生じるのはどれか。2つ選べ。

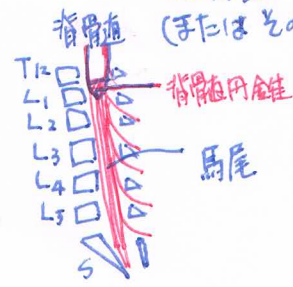
1. 部位覚障害 *…複合感覚(大脳で知覚)*
2. 位置覚障害
3. 温痛覚解離 *…温痛覚の伝導路である外側背骨直視床路は、側索と上行。*
4. 振動覚障害
5. Babinski 徴候 *…錐体路(側索と下行)障害でみられる。*

49-P-083 頸髄損傷患者でみられる脊髄ショック期の徴候はどれか。

1. 温痛覚解離
2. 腱反射亢進
3. 痙性四肢麻痺
4. 自律神経過反射
5. 肛門括約筋反射消失

脊髄ショック期では、損傷部以下の運動・感覚・反射が消失する。

当 感覚角解離とは
深部感覚が保たれているのに温痛覚が障害されている(またはその逆)という状態。

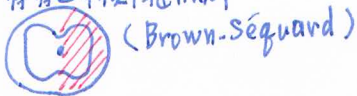


50-A-083 脊髄損傷の感覚障害について正しいのはどれか。

1. 馬尾神経症候群ではみられない。 *腰椎骨部の損傷でみられる。*
2. 中心性頸髄損傷では上肢より下肢に強い。
3. 脊髄円錐症候群では肛門周囲が障害される。
4. 前脊髄動脈症候群では位置覚が障害される。 *温痛覚*
5. Brown-Séguard 症候群では病巣の反対側の位置覚が障害される。 *温痛覚*

脊髄の障害と症状

脊髄半側症候群



(Brown-Séguard)
同側 - 深部感覚 x
運動 x
反対側 - 温痛覚 x

前脊髄症候群



前脊髄動脈の閉塞。
両側の温痛覚 x
両側の運動 x
深部感覚 o

後脊髄症候群



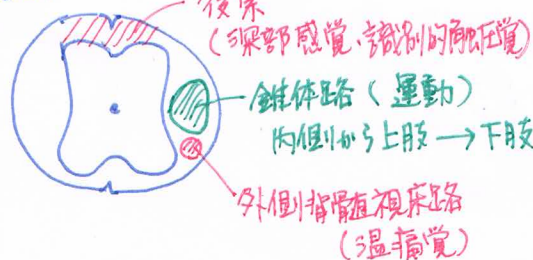
後脊髄動脈の閉塞。
両側の深部感覚 x
温痛覚 o
運動 o

中心性頸髄損傷



中心部の障害
上肢のマヒが強い。
深部感覚は比較的温痛覚は x
肛門周囲の感覚 o

<伝導路>



*錐体路は、上肢へ行く線維が内側(中心に近い)を通っているため、上肢のマヒが強い。